

《名主の滝から飛鳥山公園へ》

立春の翌日、前日の異常な陽気から一転、冬ながら穏やかな1日を、東京は王子の飛鳥山界隈を横田巖氏のご案内で巡り、紙の博物館や飛鳥山博物館の見学など、有意義な散策を楽しみました。

＜ 実施日 平成31年2月5日（火） 参加者 19名 ＞



《音無親水公園》

JR 王寺駅北口を出たところにある親水公園。「日本の都市公園100選」にも選ばれています。石神井川の流路に沿って、水車や灯籠があり、柔らかな川のせせらぎは「和の風情」を醸しています。東京の街の中でこんなところが・・・と、ちょっとびっくり。



《王子神社にて》

参加の皆さん

遠路なので、金沢文庫駅から特別の御召車に坐って・・・文庫駅からの増結車でした。



《王子神社の由来について横田巖氏の解説を聴く》

創建は不詳の由、再興が元亨2年（1322年）で伊弉諾命、伊弉冉命、天照大御神、などが祀られている。当地の領主豊島氏が社殿を再興し、熊野新宮の浜王子より「若一王子宮」を改めて勧請・奉斎、王子神社となった由。



《髪とかつらの神社・・関神社》

王子神社の境内に、髪を供養する「毛塚」がありました。

「髪の祖神」として崇敬を集めていた「関蟬丸」が祀られている由。

髪の毛が逆髪であるゆえに嘆き悲しむ姉君「逆髪姫」のために侍女に命じて「かもじ・かつら」を考案し髪を整える工夫をした・・という。今も理容、美容業、床山、かつら屋さんなどが髪の供養と恩返しのために奉斎している由。



《王子稲荷神社》

今から1000年の昔、この地に祀られたお社。

大晦日、稲荷の使いである狐が関東各地から集まり、近くのエノキの木の下で身なりを整え、この神社に初詣をするという言い伝えで知られる。境内の崖の中に狐の穴があります。



《名主の滝》

江戸時代後半に王子村の名主、畑野孫八が屋敷内に滝を開き、茶を栽培して避暑のために一般に開放したのが始まりで、「名主」はそこに由来する。園内は回遊式庭園となっており男滝、女滝、独鈷の滝、湧玉の滝の四つの滝が復元されています。

王子近辺には、かつて「王子七滝」と呼ばれる七つの滝があったが、ここだけが現存。



《飛鳥山公園》

徳川吉宗が、享保の改革の一環として、江戸っ子たちの行楽地にするために整備したのが始まり。吉宗の治世の当時、江戸近辺の桜の名所は寛永寺程度しかなく、かつ、花見の時期は風紀が乱れた。このため、庶民が安心して花見ができる場所を求めた由。開放時には、吉宗自ら飛鳥山に宴席を設け、名所としてアピールを行った由。

現在もソメイヨシノを中心に、約650本の桜が植えられている由。

由来を彫り込んだ石碑がありました。この石材は紀州から献上されたものだそうです。



《公園内にデゴイチが》

思わぬところに、デッカイ機関車が、いわれは確かめそびれました。

この後、紙の博物館と、この近辺の歴史的遺産や事象を紹介する飛鳥山博物館を見学し、午後3時過ぎに、散策終了・解散となりました。

(お わ り)